

# 隣街、釜山。「釜山大前で一杯やってきます」

2004年12月21日～22日

## 敗退の向こうで

のっけから暗い話で恐縮だが、2004年12月15日水曜日、今年挑戦を続けてきた地方公務員試験にすべて敗退した。受験した5自治体のうち3自治体で1次通過したのだから、十分に合格射程圏内には入れていたのだけど、厚く高い2次の壁を一つも破れなかった。

三位一体改革で、採用手控えの自治体が続出した今年。こんな結果も覚悟はしていたけど、実際目の当たりにするとやっぱり辛いよなあ…なんて電話を、その日の夜、親友と交わっていたのが、忙しい友人から珍しく、

「来週は祭日とあわせて3連休になりそう」

という話を聞いたとき、ふいにちょっと無理を頼んでみた。

「なあ、火・水で釜山行かない？」

先々月に社員旅行でソウルにいったばかりの友人、簡単にうんとは言ってくれないだろうと思っていたけど、それなりに落ち込んでいた僕の気持ちを汲んでくれた。ありがとう。

こうして、僕の傷心釜山旅行は、友人と共に走り始めた。

## 激安火曜日にも満員の客を乗せ

12月21日火曜日午前6時、自宅から最寄りのJR長崎本線中原駅に原付を走らせる。寒い！しかしこれに耐えられるだけの服を持っているのだから、韓国の寒さも大丈夫なはず。韓国では比較的暖かいとされる釜山だが、インターネットで見た韓国ニュースによると、昨日から急に寒くなったそうで、今日は更に冷えるとの予報が出ていたのだ。防寒対策はしっかりするに越したことはない。

早朝の通勤電車を乗り継ぎ、博多駅へ。ここからバスに乗り換え博多港国際ターミナルへ向かうというのはいつも通りだが、その西鉄バス自身は大きく変わっていた。停留所やバスの方向幕に「하카타항 국제터미널(博多港国際ターミナル)」の字が入り、韓国語の案内放送まで始まったのだ。こういうあからさまな「国際化」には賛否両論あるけど、この場合、必要最小限の内容に留めているので、日常利用する日本人にも大きな迷惑ではないはず。このバスさえ乗れば駅まで行けるのだから、日本を自由に旅したい韓国人のため、

永く続けて欲しいサービスだ。

渋滞のため8分ほど遅れてターミナル着。今回、僕と旅を共にする友人は、一本前のバスでやって来ていた。昨夜は忘年会、それもマズい酒を飲まされたらしく、寝不足＋二日酔いでずいぶんひどい顔だ。せっかくなので天国・韓国に行くのに、なんだかもったいないなあと思うが、忙しい中、無理して来てくれたことにまず感謝。荷物はずいぶん少なく、

「海外に行くなんて、まったく考えずに来た」

そうだ。僕だって、着替えも持ってきておらず、「地球の歩き方」も忘れてきたのだから同じようなものか。今回の旅のコンセプトは、旅行だなんて肩肘を張らずに、福岡から「釜山の身近さを実感」することでもあるのだから、これでいいのだ。

博多港は、8:45発のジェビ、9:00発の未来高速コピーと続行する釜山行きの乗客でいっぱい。カウンターに列を作って、搭乗券を手にした。感心するほどあっさりした出国審査を終え、しばし免税ゾーンで待機してから搭乗。今回の船は、韓国船籍。以前に乗ったことがあるものと同じで、ちょっと残念だ。平日とはいえ、年末で韓国ブームが相変わらずということもあり、修学旅行生も加えてほぼ満席。しかも100%近くが日本人だ。よく先週の金曜日に予約して席が取れたものだ、幸運に感謝する。満員の眠気と熱気に乗せ、ジェビは定刻に港を離れた。

さて、いつもは自由旅行が旨の僕らだけど、今回はJR九州の旅行センター「ジョイロード」の、「ぶっとびビートル」なるパックツアーに乗った。火曜出発が最安値で、往復高速船に高級ホテルがついて、なんと15,000円からという値段である。高速船往復の定価は24,000円、ナイスゴーイングカード(JR九州の若者向け会員サービス)の平日割引でも15,400円なのだから、一体どうなっているんだという激安値である。それだけ、定価で儲けているということなのだろうけど、以前はその定価で乗ったのだから、今回は罪な激安ツアーに乗る権利もあるでしょう!? 今回はちょっと贅沢してホテルを最高ランクにしたけど、それでも16,500円。空席さえあれば前日の申し込みでも受け付けるという手軽さも相まって、釜山を隣街感覚にしてくれる優れもののツアーなのだ。

冬場の日韓航路で心配なのは、時化による揺れだ。今回は一昨年、未来高速の高速船「コピー」に乗った時よりは、少ない揺れだった。それでも弱い人は船酔いしてしまうようで、「袋」を持って通路を掛ける姿が2、3見られた。いい天気ならば、列車とほとんど変わらない揺れの高速船だけど、天候次第。「船に弱い人でも安心です」の謳い文句に乗せられては、ちょっと気の毒な気はする。

ほとんど海しか見えない博多からの2時間55分は、決して「あっという間」ではないのだけど、それこそ友人のように道中ほとんどいびきをかいていけば、一瞬の道のりだろう。目覚めれば、丘の上まで高層アパートが立ち並び、ハングル文字を書いた船とコンテナが行き交う、釜山の街並みだ。

留学から戻ってきて以来、1年4ヶ月ぶりの韓国。またこの地に立てることに、ようやく喜びが湧き上がってきた。

### サラリーマンを見よ！

頼りないタラップを渡り、釜山上陸。初めて韓国に来たときにはドキドキだった入国審査も、今では緊張感のかけらもなくすっかり慣れたものだ。荷物検査もないまま、放免となった。わずか1泊2日の旅行、両替は1万円に留めておく。今回は高級ホテル泊まりだから、足りなくなればすぐフロントで両替すればよい。今回もほぼ、円：ウォン＝1：10で計れる換率だった。

港から出れば12時も30分をまわろうとしていて、すっかりお昼時だ。激安ツアーでやってきた今回の旅だけど、気軽さを感じるためにも、あまりお金をかけないでおこうというコンセプトなので、普通の食堂で食べたい。そこでビジネス街であり、旅行者も多い港から釜山駅までの裏通りで探してみることにした。

いかにも韓国らしい、庶民的な道を歩くことしばらく、地元サラリーマン達で賑わっている店を2件見つけた。かなり調子がよくなっているようだが、二日酔いの胃をひきずっている友人にはいいだろうということで、「もやしクッパ」のお店に入ることにした。

店名が「もやしクッパ」なのだから、まずうまいに違いない看板メニューを友人が注文。舌代の一番上に書いてある「굴국밥(グルクッパ)」を僕が頼んでみることにした。それにしてもグルってなんだろう？ 緊張感がないあまり、辞書までも忘れてきたのだ。

出てきたそれは、貝だった。それも、広島人の友人が食べ



カキクッパ 4500 ウォン

てみて「うまい」と言わしめるだけのカキだったのだ。そういえば、冬の釜山の名物といえばカキなんて話、どっかで聞いたことがある。韓国料理としては辛くなく、季節の名物に出会えて大満足だ。友人のもやしクッパは辛めで、みるみる額に汗が吹き出てきた。どちらかといえばカキが「当たり」だった気はするが、どちらも味わい深く、まずは大成功の昼食だった。飯屋は飯時に探すのが鉄則だ。

外に出れば寒いけど、辛めの料理に汗をかいた後の友人は「この寒さが気持ちいい、爽快」とごきげんだった。この気候だからこそ、こんな料理があるんだ。

### KTX&釜山駅に賛否両論

満足したおなかを抱え、釜山駅への道を歩く。路上駐車が多く歩道が機能していないのは相変わらずだが、車の列を見ていると軽自動車の「マティス」(GM大宇製)がずいぶん増えた気がする。政府の各種優遇策に加え、かわいいデザインが受けているようだ。ちなみに日韓では軽の規格が違うので、マティスを日本で走らせれば普通車扱い。4人で乗ってもゆとりのサイズで軽なのだから、羨ましい気はする。

そのまま歩いて釜山駅へ。僕が留学から帰るときは一部が完成していただけの新釜山駅舎だが、今回、ガラス張りの壮大なターミナルへと大変身を遂げていた。ガラス張りの割に、なんだか「ぼてっ」と空から落ちてきた感じの重い印象を受ける。フレームに収まりきれないほどの規模だ。

駅舎内に入ってみれば、あまり外光が入らずに天井も低く、ガラス張りの外観とは対照的に、押し込められた印象が強い空間だ。ソウル駅舎を訪ねた友人によれば、こちらは大きな空間を持った素晴らしい建物だそうで、なぜこちらもそうしな



顔はスマートなKTX

かったのか疑問に残る。建物をよく見てみれば、外側のガラス部分と内部は別々の構造躯体のようで、ひょっとすると以前の駅ビルを改装してできた建物なのかもしれない。リニューアルだとすれば、かなりイメチェンできたと評価できそうだ。

この駅舎改築は、この春の韓国高速鉄道・KTX 開通に合わせたもの。今回は“鉄分”（鉄道の要素）がほとんどない旅だが、せめて KTX の勇士だけは眺めたいので、入場券を求めため、空港のカウンターのよう立派になった切符売場に並んだ。僕の前の方は前売りの発券開始日を間違えていたようで、駅員に何度も食って掛かっている。別の列に移ったおばちゃんの方が早く順番が回り、苦笑いしていたら飴をくれた。

「あら一個しかないわね。友達と一緒に食べなさい」

「嫌です！」

韓国国鉄の入場券はこれまで懐かしい硬券だったが、自動改札化とともにカードサイズの券になったのは残念だ。日本と同じドア式の自動改札を抜け、吹きさらしの踏線橋へ。釜山の気候が温暖だからか、それとも建設費を節約したからか、ソウル駅のようなホーム全体を覆うドームはない。エスカレーターを降りると、写真で見たそのままのフランス TGV 型の KTX 車両が止まっていた。白に青帯を巻いた流線型の最前部は、純粹にかっこいい。そのままソウルまで飛び乗りたい衝動にかられてしまう。普通車の座席は噂に聞いていたとおり狭いようで、初乗りの時には千円少々プラスしてでも、ぜひ特室車に乗りたいものだ。

## 売りっぱなし

釜山駅から地下鉄で、新市街地の西面(ソミョン)へ。改札

に予め買っておいた「ハナロカード」をかざすが、うまく反応してくれない。ハナロカードは東京のスイカ、大阪のイコカ・ピタパと同じICカードで、軽くかざすだけで通過できるのだが、僕は数回、友人に至っては10回近くやり直して改札に大渋滞を発生させた挙句、やっと通ることができた。読み取り異常のカードなのかしら。

乗った電車は新型なのか改装したのか、車内がびびびかだった。窓ガラスには UV カット加工を施してあるし、雰囲気も明るい。最近のソウルの地下鉄のように、難燃化対策としてシートをステンレス製にせず、従来のモケットで通しているのは乗り心地の面でいいけれど、非常時のドア開閉法についてはもっと大きく記すべきでは？ 喉元を過ぎれば…では、大邱の被害者もうかばれまい。

西面で降りて駅事務室に「カードが異常なんです」と申告してみたけれど、「ちゃんと読み取れてますよ」「通れないわけじゃないでしょ」の一点張り。ラチがあかないので、

「何十回もやったんです。正常なカードと取り替えてください」

と言ったら、

「ここではできません。国民銀行に行ってください」

なんと…釜山の地下鉄は、駅で交通カードを売らないソウルと違って便利だと思っていたのだが、「売りっぱなし」だったのか。

さて、さっき食べたクッパは満足だったのだが、消化に良すぎるのかももう空腹を覚え始めた。そこで間食に、ロッテ地下街にあるロッテリアへ。もちろん目当てはキムチバーガー…だったのだが、なんとメニューから姿を消していた。これぞ韓国！といったメニューでお気に入りだったのだけど、飽きられたのかなあ。代わりに新メニューの韓牛プルコギバーガーを頼んでみたが、ずいぶん待たされた挙句に冷たかったものだから、韓国ロッテリアの印象そのものまで大幅ダウン。韓国留学から帰って以来、日本のロッテリアも最悪にしてたのに…。

## 身に余るホテル

気を取り直して、今回の宿泊先にチェックインしておこう。西面にある高級ホテルといえば、お馴染みロッテホテルだ。23歳・男同士の2人旅で泊まるようなホテルじゃないことは、本人たちも重々承知だけど、建築を学ぶ者として、建築的に良くてきたホテルで一泊するのも良いだろうという選択だ。

ロッテホテルの壮大さは、板門店観光の出発点として立ち

寄ったソウルで体感済みだが、こちら釜山も負けてはいない。回転ドアの中心には陶磁器が置かれ、ラウンジは滝の流れるジャングルのように。その豪華さに、思わず緊張してしまう。わしがこんな所に泊まっていんじゃないか？

しかし 16,500 円の激安パックツアーに組み込まれているのはこのホテル。フロントに名前を告げれば、確かに一泊の予約が入っていた。渡されたキーは27階の部屋。かなり高い位置にある部屋のようにも見えるが、41階まで客室のあるホテルの中ではまだまだ中層。しかも激安ツアーなので、客室からの展望にさして期待はしていなかったのだが…

カーテンを開ければ、北方向に大きな展望が広がっていた。真下の西面の繁華街から国鉄釜田駅まで、思いのままの展望だ。すげえ… 部屋を眺めれば、ゆったりしたベッドに、ゆとりあるバスルーム。バスローブまで備えてある。うひゃあ！ これまで韓国旅行では旅館、モーテルにばかり泊まり歩いてきた僕にとっては、どれもこれも未曾有の体験なのだった。

ただ、ピンク色が基調の部屋を眺めながら、友人が一言。「やっぱり男同士で来る所じゃないな」

同感。状況的にも年齢的にも、身分不相応な気がする。これも今回だけの経験。次回もツアーで来るにしても、別の場所に泊まろう。

## 山へ

寝不足の二人は、しばし部屋で休憩。起きれば午後3時半。ぼさとしてたら、1泊2日の旅はあっという間だ。荷物(といっても、原付に乗る時に使ったマフラーとフリースだけ)を置いて、身軽になって「下界」へと降りた。

少し混み始めた地下鉄でさらに北へ上り、温泉場(オンチョンジャン)駅で下車。目的地の金剛(クムガン)公園までは歩ける距離だけど、横断歩道の少ない韓国では、近くの移動でも思ったより時間がかかることがある。うかうかしていると日が落ちそうなので、時間の節約の味方、タクシーを捕まえることにした。

流しの一般タクシーなのに、運転士(韓国流に言えば運転技師)は、少したどたどしいながら日本語を話してくれてびっくり。逆にぼられないか心配になるけれども、きちっとメーター通り2,000ウォンで走ってくれた親切なタクシーだった。こんなタクシーばかりなら、僕でももっと乗るのだけどね。きっちり正門前まで付けてくれたので、かなりの時間短縮になった。

金剛公園は、歴史ある釜山市民の憩いの場。ミニ遊園地



ロープウェイからの眺望



黄昏

にはちょっと古い遊具が並んでいて、以前友人と行った尾道の千光寺公園を思い出させる。さらに「千光寺公園そのものだ！」と言わしめるのが、山上まで運んでくれるロープウェイだ。交走式(2台のゴンドラが行き交うタイプ)で、遊園地と同様なつかしさを覚えるのも道理、1967年に開通した韓国初のロープウェイとのこと。ロープウェイはちょっとスリリングな乗り物だけど、古いとなると別の意味でのスリルが加わる。(ちなみに韓国語ではロープウェイを「ケーブルカー」と称するが、日本ではまったく別の乗り物を指すので、以下も日本式に「ロープウェイ」と表記します。)

往復5,000ウォンなりのチケットを買い、最終便の時刻を流暢な韓国語で尋ねたつもりだったが、日本語のパンフレットを渡されてしまい、少しへこむ。待つことしばし、4時30分発のロープウェイは、僕らと案内の女の子を乗せて、山上に登り始めた。案内のテープ放送が流れ、さらに日本語の解説まで加わるのだから、どこの国にいるんだか分からなくなる。

傾斜はかなりのもので、下界がぐんぐん遠ざかっていく。山がちな地形の釜山、市街地全体が見渡せるわけではないけど、見えている範囲だけでも十分に大都会だ。ケーブルの柱間

距離も大きく、岩場の断崖絶壁を渡りこすものだから、ケーブルが切れたら…なんて、あらぬ想像をすると、手に汗握る。山上に近付き、ホッとした所で思わず、日本人乗客の前でつまらなさそうだった、案内のお姉さんに話しかけていた。

「ここで仕事するのは、怖くないですか!？」

「あら、韓国語お上手なんですね！景色も綺麗だし、楽しいですよ。怖いですか？」

「怖いです。高いところが嫌いだから…それなら、来なきゃいいんですけどね！」

笑顔になったお姉さんに見送られ、僕は山上駅から更に上を目指した。

折り返し最終便まで55分。これに乗り遅れたら山上に取り残されるという状況の中、僕らが目指したのは金井山城の南門。万里の長城を彷彿させる山城で、その南門までは1,200m。時間もタイトなので、友人は駆け出した。が、少し登った時点で二人とも息が切れる。無理はやめよーぜ。

前を見れば、あ、人が倒れている。日本で同じ事態に遭遇すれば「！」マークを付けるべきシチュエーションだろうが、韓国だとなぜか有り得ることに思える。友人も心配しているので駆け寄ってみたら、やはり、ただの酔っ払いだ。同行のおじさんが「おい、起きろ！」と言っているのだが、まるで目覚める気配がない。ほって置くわけにはいかないけど、僕らにも目的地があるので、

「ロープウェイの最終が5時半だから、もしまた降りてきたときもこうだったら、お手伝いします」

と言って、歩みを進めた。

1,200mといえば徒歩20分くらい。決して無理な距離ではないけど、案内看板が少なく道に迷いかけるし、遠くから犬の鳴き声も聞こえてくる。もし野犬だったら、すれ違う人もなく携帯もないとあっては、絶望的だ…ちょっとマイナス思考すぎるのは分かっているけど、暗くなってもきたので、途中で引き返すことにした。

その代わりにできた時間で、ロープウェイの山上駅の周辺を歩いてみた。現れたのが、なんともアンバランスに立っている岩で、その岩の側をすり抜けると、眼下に釜山の住宅街が広がる岩場に出た。ちょっとした絶壁に突き出していて怖くもあるけど、なんだか釜山の街を征服したような？ いい気分だった。

帰りのロープウェイは、賑やかなおじさん・おばさん達と共に下山。少しずつまたたき始めた街の明かりに、夜景の美しさ

が思われるが、15分後の便が最終だ。

## 温泉博覧会

帰路はタクシーに乗らず、他のハイキングの人たちと一緒に坂道の路地を下った。夜の帳が下り、すっかり冷え込んできた路地裏。子どもたちが駆け回り、クモンカゲ(구멍가게:小さな雑貨屋のこと)が明るい光を投げかける雰囲気には、どこか懐かしさを感じる。決して日本のように失って欲しくない、韓国の大好きな部分だ。

さて、釜山市民にとって金剛公園は憩いの場ということは先に記したが、その後は麓の東來(トンネ)温泉で汗を流すのが定番コースだという。というわけでそれに乗っ取り、東來温泉の虚心庁へやってきた。留学から帰国する時、釜山で最後に立ち寄った温泉センターだ。

虚心庁のビルの3階へと移動。料金は後払い制に変更されており、そのままフロントで鍵を受け取った。その鍵が靴と服のロッカーを兼ね、アカスリなど浴室内での支払いもこの鍵の番号を使うというシステムだ。男湯という表現は韓国でも同様(ハングルで남탕と書く)なのだが、ここでは「善男湯」と称する。ただの男湯よりも気分いいじゃん。

浴室の扉を開ければ、巨大な空間が広がり圧倒される。ドームの広がり気持ちはいい中央の「長寿普通湯」を始め、洞窟風呂、露天風呂、足湯、寝湯、さらには将棋湯!? などなど、多彩な設備。お湯も黄土湯、ジャスミン湯、緑茶湯などがあり、さながら温泉博覧会といった所だ。これだけの規模がありながら、温泉の湯そのものも決して悪くはない。塩素臭のない、美人湯系のすべすべ温泉だ。友人とは大分での学生時代、別府や長湯の共同湯を始め、ずいぶんいろんな温泉に行ったけど、この温泉に関してもお互い「いいねえ、いいねえ」を連発したのだった。

夏場は子どもたちの遊び場になっていたプールに、今日は人影がなし。誰もいないのをいいことに、思いっきりバタ足で泳いだら息が切れた。そういえばまともに泳いだのって、何年ぶりかな？ その何年ぶりかのプールがまさかこんな形とは。

寝湯の横にある浴室内ドリンクスタンドも、今回初めて使ってみた。食事系のメニューも始まったらしく、これなら一日中浴室内で過ごすことだってできるわけだ。ぶどうジュース 1,000ウォンなり(生搾りではなく、どこでも売ってるペットボトルのジュースだった)をカウンター飲んでみたが、店員さんは服を着ているのにこっちはフルチンなのだから、なんとも妙な気分。ちょっと日本じ

やありえない経験だった。

1時間ばかりゆっくりして、すっかりぼかぼか。駆け足旅行でなければ、それこそ1日中ゆっくりしたい温泉だった。

### 夜こそ学生街

温泉場駅から釜山大学前へ、高架からの夜景を眺めながら1駅上る。釜山でも、活気あふれる繁華街の一つである釜山大前。高校の卒業旅行ではその雰囲気酔いに酔いしれた、思い出の場所だ。留学からの帰国前にも来てみたのだが、その時は朝だったので寂しかった。夜こそ訪ねたいエリアの一つだ。

駅から大学へと続く道は、人、人。それも僕らの世代に加え、制服の高校生も大勢行きかう、賑やかな通りだ。雑貨屋やアウトレット店などが多く建ち並び、ショッピングには楽しいし、安くておいしい食堂もいっぱい。腹が減っては戦はできぬ、まずは、今日の夕食処探しだ。

釜山大の正門から裏通りまで、いろんな道を探し回った結果、選んだ店は「OKサムギョブサル」。サムギョブサルとは豚の三枚肉の焼肉のことで、韓国ではもっともポピュラーに食べられており、留学中も何度食べたか知れない。この店はかなりきれいな構えではあるけれど、サムギョブサル1人前 2,000 ウォンと安く、かなり賑わっていて、まあハズレの店ではないはずとの判断だ。

サムギョブサル 2,000 ウォンのほか、テジカルビ 2,500 ウォン、生サムギョブサル 4,000 ウォンなどもあったが、せっかく安い店を選んだのだし、周りのみんなと同じものをテーブルに並べようと、一番安いサムギョブサル(冷凍)と焼酎を頼んだ。二人分頼もうとしたら、基本は3人前とのこと。安いと思ったが、こんなカラクリがあったのね。

でも、帰国以来久しぶりに食べた韓国のサムギョブサルが、まずかろうはずもない。韓国式焼酎をぐびっと飲みながら、どんどん食が進む。皿を空にしても腹6分目くらいで、さらに3人前と焼酎1本を追加。だんだん気持ち良くなってきて、大学生だらけの周りの雰囲気に呑み込まれ、すっかり留学生の頃の気分に戻っていた。友人も、元気を貰えるこんな雰囲気がいたく気に入ったようだ。

そんなわけで、サムギョブサル6人前に、付け合せのお代わりも何度も貰って、お腹ぱんぱんになった。これで一人当たり8,500ウォン。だから、俺は韓国が大好きなんだよ！

友人は平気そうだけど、酒に弱い僕はへろへろだ。連れら



買い物客で賑わう学生街



さあ、食べるぞ〜♪



さあ、歌うぞ〜♪

れるままに、学生街のさまざまな店を巡った。でも、酒が入ると韓国語がペラペラになるのは、留学中と同じ。友人のお土産選びの手伝いは、かなりできたはずだ。今思い返せば、かなり必要のないことまで“意識”していたような気はするけど。

韓国の学生らしいことをしてみようということで、ゲーセンのカラオケにも挑戦。一曲 200~300ウォンで歌える優れもののア

トラクションで、昨年の留学中に登場した新型の機械も、ずいぶん普及したようだ。なぜかそのゲーセンのカラオケは、選曲前に「4択クイズ」に答えなければならなかった。最初は何のことか分からず、ゲーセンの主人に酔った勢いで「選曲できないぞ！」と食ってかかっていたような、かからなかったような。

### すべった西面

このまま釜山大前で遊んでもいいのだけど、終電の時間を気にしたくないので、11時前に地下鉄で西面へと戻る。いつも終電の地下鉄で会社から帰宅している友人は、ほろ酔いで電車で揺られている今の状況に、「なんだか違和感がない」そうだ。そうだろうな。

このまま、一晩だけの韓国の夜を終えるのは惜しい。韓国らしく、HOFで軽く飲み直したい。HOFとは昼はカフェ、夜はビアホールになる、ゆったりしたソファがある店のこと。日本人が見ると、外観からはちょっと高そうな店に見えるけれど、案外安く飲める「洋風居酒屋」みたいなものだ。

最初は西面駅から南側を探していたのだがいい店がなく、北側のネオンが明るく見えて地下道を渡った。本当は探していたあたりからもう少し南側に下った所が、西面でも一番賑やかな場所だったのだが、その時は気付かなかったのだ。ビルの2階にある、HOFらしき店のドアを開けてみたが、かかっている曲が大人向けだったので避け、もう少し歩いた所にあった雰囲気の良い店に入ってみた。

たいていパイトの店員が迎えてくれるHOFだが、その店は「ママ」とよびたくなるような、中年女性が出迎えてくれて、まるでスナックのよう。思わず「ここ、普通のHOFですよね？」と聞いてしまった。その流れのまま年齢確認を受ける。これってちょっと嬉しい。僕ら二人とも23歳。当然酒は飲める年齢なのだけど、やはり軍隊に行っていない分、若く見えてしまうようなのだ。特に日本ではおっさん扱いされることも多い「僕ら」だから、そう見られるのは悪い気はしない。

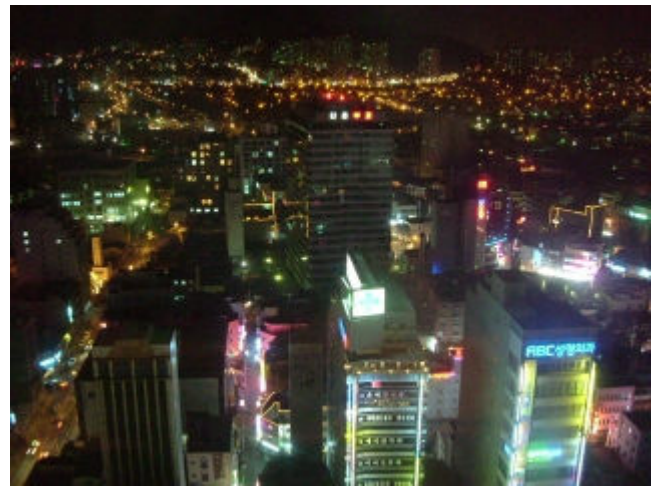
店内に入りメニューを見せてもらえば、生ビール500ccで2,500ウォン。やはり普通のHOFだ。つまみは、さっきたらふく肉を食べたので、できればすっきり系のものがいい。ここは韓国らしくフルーツをつまみに飲もうというわけで、「果物サラダ」7,500ウォンを頼もうとしたら、

「果物だったら、こっちがいいわよ」

と、特選生フルーツ 15,000ウォンを勧められる。高いので、サラダの方を頼んだが、果物サラダの正体はフルーツのマヨネ



ちょっと寂しいHOFの店内



ホテルからの夜景

ーズ和えだった。これ、小学校の給食の時も、韓国留学中に寮の食堂で出された時も、苦手だったなあ… 友人に至っては、まったく手をつけなかった。ミステイクだ。

というか、店自体がミステイクだった。いや、「ママ」は適度に構ってくれるいい人だったし、雰囲気、値段もごく普通のHOFで悪くはなかったのだが、ここには賑わいが無い。客は僕らだけで、店員が掃除を始めてしまうような雰囲気だったのだ。韓国に求めて来たのは、熱気と元気。それをかなえてくれる街、釜山大前でそのまま飲み続けていればよかった。終電なんて気にしなくても、タクシーで帰ればよかったのだ。

久々に飲んだ「HITE」の生はうまかったけど、一杯飲んだだけでおいとました。

「あら、一杯だけで帰っちゃうの？」

「さっき、焼酎いっぱい飲んじゃったから…」

果物サラダ、だいぶ残しちゃったなあ。

ホテルに帰れば、窓には釜山の夜景が広がっていた。今度このホテルに来るときは、是非異性と来たいものだ、(たぶん)お互い思いながら眠りについたのであった。ヒック、ウイ～

## 西面の実力

飲むとよく眠れる性質の僕だが、なぜか今回に関しては2時間に一回目覚めながら朝を迎えた。高級ホテルのベッドが、緊張させたのだろうか。やっぱり僕は、身分相応の所に泊まるのがよさそうだ。

明けて12月22日。7時半に目覚ましをかけたのは友人のくせに、なかなか起きないので、一人で久しぶりにMBCの朝ワイド「とても特別なこの朝」を見ながら、奴の目覚めを待った。留学中はちょうど、寮の朝食時間にこの番組があったので、よく見ていたものだ。今日の特集は、「酒を飲んだ翌朝には何を食べるのがいい?」。やや昨日の酒が残っている今の僕には、うってつけのコーナーだ。ラーメンや洋食では効果なし、韓国では伝統的に酒の翌朝に食べるとよいとされる、解腸汁(ハジャンクツ)は、科学的にも血中アルコール濃度を下げる効果があるとのこと。コーヒーはむしろアルコールを高め逆効果、チョコやイオン飲料が意外とよいという情報は、日本に帰ってからも使えそうだ。

わずか一泊の韓国滞在。食える飯は積極的に食おうと、朝飯を食らいに西面の街に下りた。中国なんかには比べれば、韓国では朝からやっている食堂は少ないと思うのだが、ここ西面では名物「テジクツパプ」の店が何軒か、おいしそう匂いをあげていた。どの店も、「席ありますよ」「なんで食べていってくれないの」と、店のおばちゃんが僕らを誘惑する。一通り歩いて、やはり朝から他のお客さんが何組か入っている一軒の店に入った。もちろん、頼んだのは「テジクツパプ」だ。

いやあ、おいしい。よく煮込まれた豚肉もおいしいし、汁はまるで豚骨スープ。玄界灘を挟んで、近い味がその土地の名物になっているだなんて、どこか因縁深いものを感じてしまう。米の一粒も残さず、ペロリと平らげただろう、酒が残っていないければ… 実際、友人は汁の一滴まで飲み干していたものだから、僕にはおばちゃんから、

「あら、おいしくなかった?」

と聞かれてしまった。美味しかったことは確かなので、

「ごめんなさい、お腹が良くなって残してしまいました。次に来たときには、きっと全部食べますから」

というと、店の名刺をくれた。食べに来るとなあ。

腹ごなしに街を南側に歩けば、どんどん賑やかになってきて、このとき初めて西面の中心がこの辺りだと知ったのだった。雰囲気の良い飲み屋も多く、飲むならこの辺りがよかった。

## 悩みどころの買い物タイム

9時半を迎え、ホテルと同じ建物にある「ロッテ免税店」が開店の時間を迎えた。僕自身は関心がない免税店だけど、お土産を買わなくてはならない友人にとっては重要な場所で、お土産選びに付き合った。もっともここはほとんど日本語が通じるから、僕の出番はまったくなし。むしろ、僕が贈り物選びの勉強をさせて貰った感じだ。

ホテルに戻れば10時半を回ったところ。身支度を整えて出ればもう11時前で、帰りの船の集合時間まで2時間少した。うかうかしていると、あつという間。地下鉄に乗り込み、釜山駅を通り越して、旧市街地の南浦洞(ナンポドン)へと向かった。

地下鉄車内では、物売りのおじさんが登場。特に釜山の電車の雰囲気は日本とほとんど変わらないから、これを見ても、ああ韓国の電車に乗っているんだなという気になるものだ。今日の品目は、鍵につけるキーホルダー型ペンライト。

「これがあれば、暗い所でも鍵穴をすぐに探せます。山で遭難したときには、助けも呼べますよ」

こんな口上で実際に売ってしまうのだから、毎度ながらすごいと思う。物売りどころか、地下鉄ホームでの自販機設置すら難しい日本ではありえない商売だけど、退屈な地下の中、こんな“娯楽”は楽しい。

南浦洞駅で下車し、地上の繁華街へ。午前中とあってまだ賑わう時間ではないけれど、多くの店は開いていて冷やかすのも楽しい。僕が買いたいのはCD。CDの定価販売規制がない韓国なので、売れ線のCDならばショッピングセンターで買った方が安いのだが、中心市街地にそのような店がないのは日本と同じだ。どちみち日本で買うよりは安いのだからと、普通のCD店に入った。

まず買いたかったのは、バラードの女王ことイ・スヨンのDVD付き6集(6thアルバムを韓国ではこう表現する)。DVDが付きながら16,000ウォンという値段で、量販店ならたぶんもっと安いのだろう。そしてもう一つの目的は、邦楽CDだ。去年の日本文化開放によって、店頭には日本のCDが並ぶようになったのは僕が留学していた頃と比べた大きな変化で、当たり前のように並ぶ邦楽CDを見た時は、感慨深かった。アルバムでも14,000ウォン程度と安めなので、日本人観光客にとっても必見である。僕はUtadaのアメリカデビュー版を購入。2枚買って30,000ウォンなのだから、嬉しくなってくる。友人も、日本に





チャガルチ市場の賑わい

比べれば少し安い程度だけだという、洋楽CDを買い求めていた。

友人はだいたいのお土産を買ったらしいが、もし何かあれば買い求めたいという。そういう時には普通のマートに入ってみるのが一番楽しいのだが、そういう店はこの界限にはない。そこで通りの向こう側にあるチャガルチ市場に足を踏み入れてみることにした。道を渡る、という何でもないことが大変なのが韓国。横断歩道が少なくいちいち地下道へ降りなくてはならないこともあるが、その階段の傾斜が急でまた体力を使うのだ。もうちょっと緩やかにするだけで、だいぶラクになるのにね。

ところで南浦洞までは何度も来ているのに、チャガルチ市場まで行くのは実は初めて。あまりに定番観光地というイメージが強すぎて、行く気がしなかったのだ。いやあ、つまらない先入観なんて持つものではない。市場の人々のほとんどが普通の韓国人。活気ある雰囲気はまさしく、僕らの求めている韓国像にぴったりなのだった。生魚の匂い、船の汽笛、背景に広がる山まで広がった住宅地。これぞ釜山の真髄なんだ。

友人が露店で買ったお土産は、いかの唐辛子漬け(僕は苦手な食べ物なので、名前もよく知らない)。これを会社に置いておけば、ご飯さえあればそれだけでみんなのお昼ご飯になりそうだ。プラスチックの「筒」いっぱい1万ウォンという値段が高いか安いかは分からないけど、韓国の、それも釜山のお土産としては最高じゃなからうか。来てよかった。

水産市場まで行けば、食堂から日本語の呼び込みも受けるけど、おおかた庶民的な雰囲気。屋台で1本ずつつまんだ「オデン」(日本語のそれとは異なり、魚の練り物そのものを指す)も、2本で1,000ウォンの安さだった。今日は帰りの船の時間が迫っているので、ここでゆっくりご飯を食べる時間もないけれど、次に来たときにはぜひここで新鮮な魚介類を楽しんでみた

い。

## そして日本へ

お昼ごはんの場所は決めていた。南浦洞の「ソラボル」という石焼ビビンバのお店だ。このお店、僕がいつそ韓国に入れ込む機会にもなった、大学2年の韓国旅行の、最初と最後の食事を選んだ店である。今またこうして友人と共に、あの時を思い出しながら食べてみたいと、ここへやって来た。

女性だけでも入りやすそうな明るい雰囲気、じゅうじゅう音を上げる石焼ビビンバの味、何も変わらない、うまい！あの時、初日に食べたこの味は随分辛かったけど、1年の留学を経た僕も、4度目の韓国の友人も、この辛さにはすっかり慣れてしまった。食後の甘いお茶まで、おいしく頂いた。

付け合せのおかずからパジョンがなくなっていたのは残念だったけど、代わりに平日には「デザートバー」を使えるようになっていたのは、嬉しいサービス。クッキーと、これまた久しぶりの薄い韓国式コーヒーを味わった。コーヒーと思うからまずいのであって、こんなお茶なんだと思えばそれなりにおいしいのが、韓国式コーヒーだ。

港への集合時間まで、残り30分を切った。南浦洞から地下街を歩き中央洞へ。お互い、残りのウォンは8千少々。コンビニ「Buy the way」にて、お菓子やラーメン、キムチなどのお土産を買って、港湾税分を残し使い切った。1泊2日の釜山、完全満喫！

1時15分の手続き時刻には少し遅れて港に着いたけど、無事にチェックインを完了し、2階の乗船口へ。突然、売店のおばちゃんから、

「ちょっとお兄さん、前にも来たわよね！」

と日本語で声を掛けられる。確かにここには何度も来ているから、以前に会った可能性もあるけど、俺は記憶にないぞ？

僕:「언제죠?(いつでしょ?)」

おばさん:「いや、覚えてないけど」

やっぱり、誰にでも言っているんじゃないの？ただ、この店に友人が買い忘れた「ゆず茶」があったので、ちょうど買い求めることができたのはラッキー。友人に売り込んだのは僕なので、

「アルバイト代下さいよ」

と言うと、

「今度来た時にバイトしてね。いつ来る？」

1年後かなと適当に答えておく。実際、1年以内に来たいなどは思っている。

日本出国と韓国入国よりは、はるかに厳しい韓国出国手続きを終え、帰路に乗り込む船は「ビートル2」。ビートル&ジェビの利用3度目にして、ようやく初めて乗れた日本船籍の船だ。ジェビより随分きれいな船内。隣が空席だったこともあり、快適な時間を過ごすことができた。

途中、姉妹船のビートルとすれ違うときには、客室乗務員からの案内放送が入り、起きていた乗客は一齐にその姿を見送った。その数分後に、未来高速の「コピー」がすれ違った時には、何の放送もなし。ライバル会社とはいえ、ハッキリシトリマスナア。

福岡が近付いてきた。ドーム、タワーが並び、飛行機が真上を行き交う風景は福岡らしいが、海からの景観のダイナミックさでは、山へ宅地が広がる釜山が勝る。福岡より釜山の方が都会だな、都会ってビルが立ち並ぶこと、人がいっぱいいることより、どれほど活気があるかどうかで決まるのかもね、なんてことを友人と話しながら、もう韓国が恋しくなった僕だった。

博多港の手続きは、僕の前にはいた韓国のおばさんが日本語をできなかったので、少し手間取った。というか、なんで韓国語できる職員がないんだよ！少し寂しい気分だった。

バスに乗って博多駅前へ行って、パスタを夕食にした。1泊2日の旅を共にしてくれた友人は、このまま会社に行って仕事を片付けるという。本当、忙しい中ありがとう。体いっぱいに元気を貰って、でもちょっと疲労感を感じた僕を乗せ、電車は佐賀へと走った。

こんなに旅らしい旅は本当に久しぶりで、わずか1泊ではあったけど、いい相方と共に心から楽しめた旅だった。金額的にも時間的にも、本当に釜山ってすぐ側。また元気を失うことがあれば、気軽にふらりと楽しみに行きたいものだ。「ちょっと飲みに行ってくる、釜山大まで」と、言い残して。



釜山へ疾走するコピー